長野県革新懇ニュース

2015 年 1 月合併号
（発行日 12 月 25 日）
年会費 5000 円（ 送料込）
振替　0510-3-15971

187

発　行　日本と信州の明日をひらく県民懇話会
（長野県革新懇）発行人：山口光昭　編集長：高村裕
〒 380-8790　長野市県町 593　高校教育会館内
TEL：026-234-1231　FAX：026-234-2219　ﾒｰﾙ：yamaguti@trust.ocn.ne.jp

革新懇の３つの共同目標

①日本の経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
②日本国憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
③日米安保条約をなくし、非核・非同盟・中立の平和な日本をめざします。

1953 年東京生れ 61 歳。東京大文学部卒、一橋大大学院社会学研究科博士課程中退。東大東洋文化研究所助手などを経て 88 年信州大学人文学部助教授、96 年同教授。20 世紀中国の経済政策史や企業史などを研究。歴史学研究会委員長。
近著、瀬畑源・長野県短期大助教と『国家と秘密』集英社新書 2014 年。主な著作、『戦間期中国 < 自立への模索 > ：関税通貨政策史と経済発展』東京大学出版会 1999 年、『戦間期中国の綿業と企業経営』汲古書院 2006 年、『社会主義への挑戦 1945-1971 シリーズ中国近現代史④』岩波新書 2011 年

国民的運動で、秘密保護法を無力化・廃止できる

久保　亨 さん

（信州大学人文学部教授）

潮目の変化となった総選挙

◇明けましておめでとうございます。昨年は長野県では、御嶽山の大噴火、県北の大地震など災害の多い大変な年でした。また、年末には総選挙が行われましたが、今回の総選挙の結果をどう捉えていらっしゃいますか。

◆自公の議席数はほぼ現状維持だったのに対し、共産党の議席数は２倍半を上回る伸びになりました。また小選挙区で自民党が得た得票数は、前回総選挙より減少しています。さらに、きわめて右翼的な発言を繰り返してきた次世代の党は、壊滅的な敗北を喫しました。

要するに全体としてみると、安倍政権が推し進めていた政治の方向に対し、国民の側から明確な異議申し立てが行われた、ということではないでしょうか。そして日米軍事同盟の根幹に位置している沖縄で、軍事基地の強化を拒否し平和で豊かな暮らしをめざそうとする決意が非常にはっきりした形で示されました。こうした潮目の変化の中に、これから日本が進むべき道を読みとれるであろうと思います。

世界の流れに逆行する集団的自衛権容認

◇解釈改憲・集団的自衛権問題についてご意見は・・・

◆私も会員である歴史学の全国的学会、歴史学研究会では、以下の三つの視点から集団的自衛権容認反対の声明を出しました。第１に、部分的であっても集団的自衛権の行使それ自体は、軍隊として交戦活動を行うことにつながるものであり極めて危険であるということ。第２に、アジア近隣諸国との軍事的緊張を増幅するような方向であり、その関係を不安定なものにする危険があるということ。第３に、手続きが強引かつ恣意的であり、まともに国会議論もせずに閣議決定だけで強行するなど民主主義を踏みにじっているということです。

また、歴史学の立場から言えば、この問題はもう少し広い視野で考える必要もあります。現代の世界は、戦争するための「共同」でなく平和のための「共同」をつくる時代になり、いまや国が国家利権で争うことを克服しようという方向に動いています。

そうしたなかで「戦争をするためのしくみ」をつくりあげようとしていることは歴史の流れに反することであり、まさに時代錯誤であるということを強調したいです。

アメリカの戦争を支えてきた戦後の歴史

◇最近の政治や世論の動きを見ていると、日本は土壌として、民主主義の度合いがまだまだ未成熟だと思いますが・・・。

◆おっしゃるとおり日本の民主主義の弱い面があるということもいえるでしょうね。こういう重要な問題について本格的な議論がないなかで事が進んでいってしまうということへ、世論が批判をもっと強めなければならないと思います。

一方で感ずることは、日本人が国際的な状況にあまりにも鈍感であったという点です。日本国憲法９条で平和が守られてきたような幻想、戦後日本は戦争をしなくて平和でよかったという幻想があるのではないでしょうか。しかし実際には、日本は戦後、サンフランシスコ講和条約や日米安保条約で、アメリカの戦争の最大の基地となり、朝鮮戦争でも、ベトナム戦争でも、イラク戦争でも、アジア人を殺す戦争の出撃基地となってきた。日本は平和を支えてきたのではなく、アメリカの戦争を支えてきた。そういうことについて、アジアに対する痛切な責任感や反省が薄いのではないでしょうか。だから集団的自衛権についても、その危険性に敏感に反応できなかったのではないでしょうか。戦争に対する沖縄の人々と本土の人々の感情の差、沖縄問題に対する本土の鈍感さはそこから来ているのではないでしょうか。

戦後日本はどこで歪んでしまったのか、日本は決して平和であったわけではなく、アメリカの戦争を支えてきたという観点から、サンフランシスコ講和条約と日米安保条約を、もう一度考え直し、検証する必要があるのではないでしょうか。こうした観点から見ると、保守の中にも戦争への反省、平和や民主主義の意識を持っている勢力はい

【2面に続く】

コラム

◆今年、２０１５年は広島・長崎被爆70周年だ。20歳で被爆した人は90歳、10歳で被爆した人も80歳になる。被爆体験を直接語る被爆者がこの世にいなくなる時代が目の前に来ている。「生きているうちに核兵器の廃絶を」という被爆者の願いがいよいよ切実なものになっている。◆このことで思い出すことがある。一昨年の世界大会でその年亡くなった被爆者山口仙二さんに『ごめん、仙ちゃんより核兵器を長生きさせてしまった』という安斎育郎さんの挨拶に涙したこと。被爆２世の人たちが、なぜ運動を始めたか聞かれ、自分たちの健康への不安と、親たちが亡くなると被爆者がいなくなることへの不安だと述べたこと。◆いま原水爆禁止運動に参加する若者たちは、「自分たちが直接被爆体験を聞くことができる最後の世代だ」として、被爆者の体験を聞き取り記録に残す運動を各地で始めている。長野県原爆被災者の会の前会長故前座良明さんの『今日の聞き手が明日の語り手』という言葉を思い出す。◆被爆者の運動は、「報復」ではなく「私たちのようは被爆者を二度とつくらせない。そのために核兵器廃絶を実現する」という非常に崇高な目標を持った運動なのだ。◆私たちは被爆国民として、この被爆者とともに歩みながら、来年４月末からのＮＰＴ再検討会議で核兵器禁止条約の締結交渉に踏み出させるよう、署名運動と国連代表団派遣運動を圧倒的に飛躍させる使命がある。

【Ｍ】